

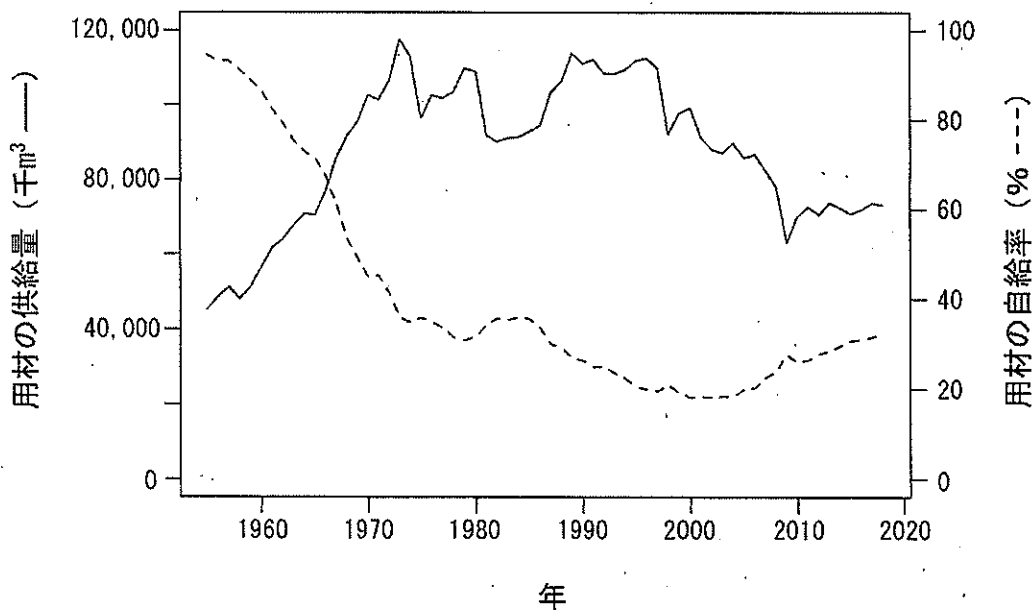
令和3年度宇都宮大学農学部第3年次編入学試験問題

宇都宮大学農学部

科目名： 小論文	学科名： 森林科学科
----------	------------

以下の文章を読み、問に答えよ。

下図は、1960年から現在までの我が国における用材*の供給量および用材の木材自給率の推移である。



(出典：農林水産省統計情報のホームページ)

用材の供給量は、第二次世界大戦後の高度経済成長期に年々増加したが、増大する需要量をまかなえるだけの森林資源は日本にはなく、海外からの輸入によりその需要を満たした。その結果、用材の自給率は、急激に低下した。この後2000年頃までは、景気の変動に影響を受けながらも用材の供給量は100,000千m³前後で推移した。また、日本の森林資源は次第に充実したが、為替レートや労働コストなど様々な問題により、自給率は2000年頃まで低下し、約20%まで落ち込んだ。

(次ページに続く)

その後、用材の供給量は、2000年頃から2010年頃まで減少する傾向を示し、それ以降は約70,000千 m^3 のほぼ一定の値で推移した。この期間、用材の自給率は増加する傾向に転じ、2018年には32.4%にまで回復した。用材の自給率の増加の背景には、国内の森林資源の充実、加工工場の大規模化、海外における用材丸太の輸出禁止などが挙げられる。一方、木材を生産する林業は、機械化などが進められ効率的な生産が進められているが、労働者の高齢化や不足などの問題もあり低迷しており、国内総生産（GDP）に占める林業の割合は、1980年には0.34%であったが、2018年には0.04%にまで低下している。

*) 用材：建物や用具を作るために使用される木材

問) これまでの用材の供給量と用材の自給率の関係を分析しつつ、我が国の用材の自給率を現在よりもさらに増加させるためには、どのような方策が考えられるか、400字以内で述べよ。